

授業科目(ナンバリング)	ソーシャルワーク実習指導 (社会) I (DC205)			担当教員	野田 健・柳 智盛・韓 榮芝・裴 孝承		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・通年	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の類型
<p>「ソーシャルワーク実習指導 I」では、ディプロマポリシーに照らし、カリキュラムに沿って専門的知識・技能を習得し、それらを国際社会、及び社会生活における様々な課題に適用して解決を図ることができることを目的とし、次の4点を授業のねらいに据えている。</p> <p>① <u>ソーシャルワーク実習の意義について理解する。</u></p> <p>② <u>ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。</u></p> <p>③ <u>社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。</u></p> <p>④ <u>実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。</u></p> <p>これらを通して、福祉的な課題について情報収集し、分析するための専門的能力を身に付け、今年度の「ソーシャルワーク実習 I」及び、次年度のソーシャルワーク実習 II に備えてもらいたい。</p> <p>また、この授業は2年次前期の「ソーシャルワーク実習の理解」に引き続き、3年次で開講される「ソーシャルワーク実習指導 II・III」の前段をなすものであり、実習事前学習の“入門”にあたる。従って、この授業の履修には、前期の「ソーシャルワーク実習の理解」を履修済みであることが前提である。</p>							①、⑤、⑥、 ⑦
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・相談援助実習先の施設・機関の基本的概要を説明できる。				・授業内外レポート ・プレゼンテーション	30% 10%	
情報収集、 分析力	・相談援助実習で学ぶ動機、目的、ねらいを明確に説明することができる。 ・実習日誌を事実と考察を区別して書くことができる。 ・実習日誌に記載することがらの要点を絞ることができる。				・授業内外レポート ・プレゼンテーション	10% 20%	
コミュニケーション力	・感じたこと、考えたことを分かりやすく伝える文章を書くことができる。 ・実習生として必要とされる熱心な取り組み姿勢を身につけている。 ・実習生として必要とされる礼儀作法を身につけている。				・授業内外レポート ・参加姿勢	20% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席 合 計					受験要件 100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>この授業では、担当教員がそれぞれ少人数クラスを受け持ち、15回の授業を展開する。「授業内外レポート」(60%)は、授業内あるいは授業外に随時課した課題を評価する。「プレゼンテーション」(30%)は、課題の発表報告とその内容を評価する。「参加姿勢」(10%)は、授業への取り組み姿勢や態度を評価する。レポート、プレゼンテーションのフィードバックは授業内にて行う。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は、通常の各クラスで行われ、実習で何を学び身につけるのかを明確にした上で、実習日誌の書き方・実習生としての礼儀作法・電話の応対などを実践的に身につける。その際、ディスカッション、グループワークを行う。また、課題作成時には、ポートフォリオなどの ICT を活用する。</p> <p>なお、この授業は1～9回を前期中に、10～15回を後期中に実施する。具体的な日程については、掲示板等を通して通知するため、履修者は留意すること。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 (2021)『ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習 (社会専門)』中央法規。 (3年次開講科目である「ソーシャルワーク指導 (社会) II・III」と共通)</p> <p>参考書：福祉小六法編集委員会編 (2021)『福祉小六法』みらい (法律を適時確認するために活用)</p> <p>指定図書：教科書と同じ</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							

対人援助専門職の教育体系には、必ず「実習」が組み込まれている。それは、学校で学ぶことと並行して「実地に学ぶ」、「実践の場で試行し、学ぶ」ということである。現場に入ってみないと分からないことを、実習という場を通して体験し、学習させてもらうのである。この授業はそのための事前学習の場である。利用者に寄り添うことが求められる相談援助実習に行くには、この事前学習をしっかりと受け、マスターすることが不可欠であり、この授業の単位を取得できない学生は、「ソーシャルワーク指導（社会）Ⅱ・Ⅲ」の履修はもちろんのこと、実習そのものに行くことができない。なお、授業の一環として、11月下旬に実施予定の「実習報告会」に参加し、発表者の実習体験報告を聴き学んでもらう予定である。心して授業に出席するとともに、真剣に受講してもらいたい。また、さまざまな福祉現場で積極的にボランティアを経験しておいて欲しい。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション&実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解① ※1～9回は、前期中に実施。	全体会で授業展開及びソーシャルワーク実習と実習指導における個別指導、集団指導の意義、日誌の書き方についてオリエンテーションを行う。また、実践記録の書き方を学んだ上で、体験したことを記録として作成する。	予習：教科書 64 頁を読む。 復習：日誌の書き方を参考に日誌を書く。
2	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解② 個人プロフィール表の作成	実践記録の書き方を学んだ上で、体験したことを記録として作成する。また、プロフィールの書き方について学ぶ。	予習：日誌を書いている。 復習：日誌を修正し、提出する。
3	個人プロフィール表の作成	ソーシャルワーク実習Ⅰに向け、自己覚知を深め、個人プロフィール表を作成する。下書きからデータ化し提出する。	予習：個人プロフィール表の下書きをしていく。 復習：修正箇所の修正。
4	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解③	実践記録の書き方を学んだ上で、体験したことを記録として作成する。	予習：日誌を書いている。 復習：日誌を書き直す。
5	実際に実習を行う実習分野(利用者理解含む。)と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解①	実習先施設・機関に関する基本的な知識を整理するために、法的根拠、理念、沿革等を調べ、情報を整理する。また、実習先施設・機関に関する基本的な知識を整理するために、利用者、職員、事業内容等について調べ、情報を実習先の知識整理シートに整理する。	予習：自分の実習先について調べる。 復習：添削結果を踏まえ、シートを完成させる。
6	実習計画書の作成①	実習に行くことを希望する理由、実習に関する不安を他学生と共有し、実習に行く目的、目標を明らかにする。	予習：資料を読む。 復習：実習計画書を完成させる。
7	実習計画書の作成②	ソーシャルワーク実習Ⅰで学びたい事項やその動機などについて文章化し、実習計画書を完成させる。 *本授業で必ず提出する。	予習：実習計画書を書いている。 復習：実習計画書を完成させる。
8	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成	実習計画書をもとに、実習生・実習指導者・教員で協議を行う。	予習：実習指導者に質問・相談したいことを考える。 復習：実習計画書を修正する。
9	オリエンテーションー実習及び実習指導の意義(スーパービジョン含む。)	ソーシャルワーク実習と実習指導における個別指導、集団指導の意義についてオリエンテーションを行う。また、実習前の注意点などについてオリエンテーションを行う。	予習：教科書 116-124 頁を読む。 復習：日誌を書いている
10	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習 ※10～15回は、後期中に実施。	実習各分野の見学実習を行い、利用者・施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関し、基本的な理解をする。	復習：学んだことのレポートを完成させ、マナバに提出する。
11	見学実習の振り返りのグループワーク	見学実習で学んだ内容について、グループワークを通じて共有する。	予習：実習体験を振り返り、発表できるように準備をしておく。
12	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成①	ソーシャルワーク実習Ⅰで学んだ内容について、グループワークや実習記録を踏まえ、実習報告書にまとめる。	予習：実習体験を振り返り、実習報告書を書く。 復習：実習報告書を完成させる。
13	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成②	ソーシャルワーク実習Ⅰで学んだ内容について、グループワークや実習記録を踏まえ、実習報告書にまとめる。	予習：次年度の実習で学びたいことを具体的に考えていく。
14	実習の評価及び全体総括会 ソーシャルワーク実習Ⅱの実習準備	ソーシャルワーク実習Ⅰで学んだことや事後学習等を踏まえ、実習Ⅱの目標とそれに向けた事前学修の計画を立てる。	予習：次年度の実習で学びたいことを具体的に考えていく。
15	実習報告会への参加 (振替授業)	ソーシャルワーク実習Ⅱを終えた実習生による実習報告会に参加し、次年度の実習に向けた情報収集を行う。	予習：実習報告会での質問を考えておく。